

『生き延びる渋谷～超絶繁華街空間計画』

■課題の主旨

「いっどれほどの災害に襲われるか」という不安を、「大地震が来たらどうせ無理」といった諦めにしてごまかしていないか。渋谷のような超絶繁華街において、そのような傾向が顕著ではないだろうか。こうした状態を、渋谷のステイク・ホルダーが多様に関わるダイナミックな都市デザイン（プラン+デザイン）によって解消する。

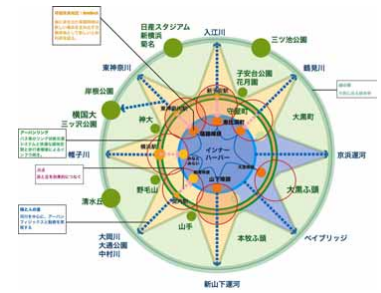


■課題の論点

1)これまで／これから→渋谷のステイク・ホルダーへの提案

この三十年でも渋谷は激変を遂げているが、現在も渋谷駅を中心に、都市再生緊急整備地域の計画が実現しつつある。目立つのはいくつかの大規模事業者による再開発事業だが、一方で、区民の参加も、まちづくり指針のような公的な文書、商店街組合らによる活性化の取り組み、マンション紛争など、様々な展開を見せている。

渋谷の過去(都市形成の経緯)と現在(進行中のまちづくりの概要)の取り組み、それによって生じている現在の状況を徹底的にリサーチしたうえで、ステイク・ホルダーの皆様に対する提案を行う。ステイク・ホルダーの方々が自分もやろうと思える提案とは何だろうか？



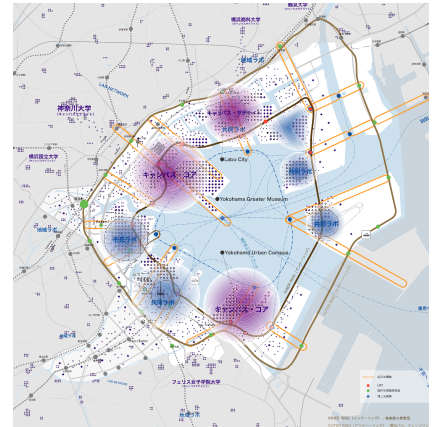
※ダイアグラムの例
横浜インナーハーバー将来構想

2)大地震直後を生き延びる→事前復興としてのアーバン・リング構想

渋谷の物理的特性をふまえて、それを補完強化するものとして、アーバン・リング構想を前提とする。ここでアーバン・リングとは、日常的な回遊コリドーとそこに関係づけられた多様なオープンスペースがリングを構成し、それを横切る非日常的な避難パスの効用も高めるものである。アーバン・リングは、故北澤猛先生が横浜の港近傍部や東京中心部でご提案されていたものであり、放射状に形成してきた既成市街地においては、多様な空間レベルにおいて、普遍的に有効な都心部再編手法である。

渋谷駅周辺地区において、こうしたアーバン・リング構想とはどのようなものとして具現化できるだろうか？

また、大地震直後に起こる事態を想定し、それを生き延びる「事前」構想である。「事前」構想の立て方、提案の仕方とはどういうものか？



3)アーバン・リング→地域プラン+界限デザイン

二つのスケールで提案をまとめる。

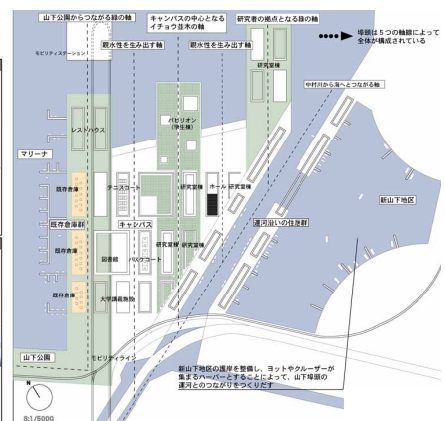
一つは、渋谷のフリンジである代々木公園、青山や代官山位までを対象にした地域全体のプラン (1:1000~2500 を想定) であり、もう一つが三次元的な空間像やそこでのアクティビティを明確に提案するランドスケープや建築を含む界限デザイン (1:200 を想定) である。二つの班 (3~4 名ずつ) を想定している。全員でアーバン・リング構想を共有して、それぞれの提案を一つの空間計画としてまとめる。

空間とは形態と機能であり、計画とはプランとデザインである。

おまけ) 生き延びるってどういうこと？ サバイバルってどういうこと？
人が？ 渋谷が？

おまけ) メガシティ東京の渋谷への提案は、世界的な意義を持ち得る！
そのためには、...？ 超絶繁華街って？

※地域プランの例
上)多様な生活を支えるリング・シティ
下)アーバン・キャンパス新大学構想



※界限デザインの例

■ 成果のイメージ（ダイアグラム、平断の図面、模型）

- ・ 渋谷全域を対象にしたアーバン・リング構想
- ・ 大きな地形やアクティビティも含む 1:1000~1:2500 の地域プラン
- ・ ランドスケープや建築も含む 1:200~1:1000 の界限デザイン

■ 想定参加人数と指導体制

参加人数は6~8名程度。窪田と工学院大学の遠藤新先生の合同スタジオで、新宿でもしばしばエスキースをやる。羽藤英二先生にも適宜ご指導いただく。

■ 進捗イメージとスケジュール

学科としての演習時間は、火・水・金の13時~16時20分だが、指導はコアタイムを中心に臨機応変に行う。時間に余裕がなく常に全員で議論や作業ができるわけではないので、紆余曲折がわかるように、まとめたり発表する。

無：原則火曜、学生のみ

○：原則水曜、窪田エスキース、火曜までにやったことを全員で共有すると共に、次のステップを考える。

●：原則金曜、遠藤新先生との合同エスキース

△：中間ジュリー、最終ジュリー

1	6.7 金	●	【出題+メンバー決定】 現地踏査、アーバン・リング構想の検討と共有
2	6.11 火		・ アーバン・リング構想の精査→全員で議論。 a アーバン・リング構想の立案→全員での議論を踏まえて、3人程度で描く。 b 渋谷の都市形成史→2人程度で図面としてまとめる。 c 関連する計画や進行中の事業のレビュー→2人程度で図面としてまとめる。
3	6.12 水	○	a、b、cの各成果について発表、議論、共有
4	6.14 金	●	・ アーバン・リング構想について全員で議論して決定 ・ 地域プランと界限デザインに班分けして、何をやるのか議論 議論のポイントは、提案の対象とする内容や場所と、調査の項目 地域プランは、日常/非日常、滞留/移動等立てる項目と、幅員と活動など調査項目 界限デザインは、対象とする場所の選定に関する精査と、調査項目 【18時より渋谷区都市整備部齋藤様より最近の渋谷区駅周辺整備についてのレクチャー】
5	6.18 火		・ 各班で、やることを明確化して作業、調査
6	6.19 水	○	両班合同で、それぞれがやっていることを発表、議論（調査の結果発表、提案の方向性） 相手班の発表を受けて、多少修正
7	6.21 金	●	両班による調査結果の発表と提案の方向性について議論 修正方向の確認
8	6.25 火		各班での作業続行
9	6.26 水	○	両班合同の提案について発表、議論 相手班の意見をを受けて、多少修正
10	6.28 金	△	【都市工学科中間ジュリー】
11	7.2 火		ジュリーをふまえて、各班で作業続行
12	7.3 水	○	全体のまとめ方について議論して決定
13	7.5 金	●	・ チーム毎にやっていることの発表、議論、最終決定、この先はプレゼンテーションに専念 ・ アーバン・リング構想の再検討
14	7.9 火		プレゼンテーション準備
15	7.10 水		プレゼンテーション準備
16	7.12 金	●	プレゼンテーション準備
17	7.16 火		プレゼンテーション準備
18	7.17 水	△	【都市工学科最終ジュリー】
19	調整中	●	【工学院大学との最終議論】
20	調整中	●	【渋谷ステイク・ホルダーへのプレゼンテーション】 地域の商店街の方や区職員の方、まちづくりをされている地域住民等への発表。 総括

■参考案

構想

- ・「海都横浜構想2059」2009 横浜インナーハーバー構想ワーキング構想案
<http://www.city.yokohama.lg.jp/toshi/design/shingikai/ih/001/pdf/20090730shiryo-4.pdf>
- ・羽藤先生チーム2011、東京2050都市ビジョン「符号化 Coding」<http://tokyo2050.com/ex1/11.html>

渋谷の都市形成

- ・田原光泰 2011 「春の小川」はなぜ消えたか〜渋谷川にみる都市河川の歴史、之潮
- ・吉見俊哉 1987、都市のドラマトウルギー、弘文堂(→2008 河出文庫)

渋谷の関連計画一覧

渋谷区：

- 渋谷区基本構想
- 渋谷区実施計画2013
- 渋谷区地域防災計画
- 渋谷区都市計画マスタープラン2000
- 渋谷区景観計画
- 渋谷区まちづくり条例
- 渋谷駅周辺整備ガイドライン21
- 渋谷駅中心地区まちづくり指針2010●
渋谷区民、特に商工会関係者等が中心になって、駅周辺整備のあり方を徹底的に議論したものをまとめた。
実際にデザインレビュー委員会の審議においても、まちづくり指針の内容との合致性が非常に重視されている。
- 渋谷駅街区基盤整備方針
- 渋谷区駐車場整備計画
- 駐車場地域ルール
- 渋谷駅中心地区大規模建築物等に係る特定区域景観形成指針

東京都：

- 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針
- 都市再開発の方針
- 東京の都市づくりビジョン
- 新しい都市づくりのための都市開発諸制度活用方針
- 2020年の東京
